

全酪連会報 8

2022 AUG No.683

第73年度(令和4年度) 通常総会開催される(概要)

若手後継者の本音／熊谷 耕一さん

総務部だより／デジタル庁・総務省からのお知らせ

第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会①

第12回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介

父の日に牛乳を贈ろう! (後編)

日本酪農見て歩紀／水本マーク牧場(兵庫県南あわじ市阿万)

酪農トピックス／朝から牛乳をグツと飲んで一日元気に!! 「グツとモーニングミルクアクション」開催(酪農部)ほか

人事異動



第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会
の動画をYouTube配信しています!

➡ <https://youtu.be/bm7ltnp8sfs>



全国酪農業協同組合連合会

第73年度 通常総会

全国酪農業協同組合連合会

第73年度(令和4年度)

通常総会開催される

概要

本会は、7月28日(木)13時より、フォレストテラス明治神宮(東京都渋谷区代々木)において、第73年度通常総会を開催し、令和3年度の事業実績、剰余金処分案、令和4年度の事業計画案などの承認を得るとともに、役員の新選を諮りました。

新役員体制決定

本通常総会において役員の新選が行われ、下記のとおり新役員が選任されました。



●理事
下西 和夫
標津町農業協同組合
非常勤／新選



●理事
高橋 秀行
千葉県酪農農業協同組合連合会
非常勤／新選

本総会には来賓として、農林水産省・渡邊洋一畜産局長、農林中央金庫・岩曾聡常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議等、関係団体からもご臨席をいただきました。

総会は、木本栄一氏(埼玉酪農農業協同組合代表理事組合長)を議長に

選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第5号議案「役員の新選の件」において、役員新選を行い、新たに役員を選任しました。

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。



令和3年度事業実績及び令和4年度事業計画

(単位:百万円)

科 目	令和3年度 実績①	令和4年度 計画②	②/①対比
酪農事業	33,130	30,818	93%
〈取扱金額〉	(7,111)	(6,363)	89%
購買事業〈取扱金額〉	88,830	88,195	99%
総取扱金額	121,959	119,013	98%
	(95,940)	(94,558)	99%
事業総利益	11,644	11,350	97%
販売費用	8,322	8,222	99%
事業管理費	2,898	3,179	110%
事業利益	425	-51	-12%
事業外収益	1,376	1,410	102%
事業外費用	1,004	1,010	101%
経常利益	796	349	44%
特別利益	126	0	-
特別損失	195	100	51%
税引前当期利益	726	249	34%

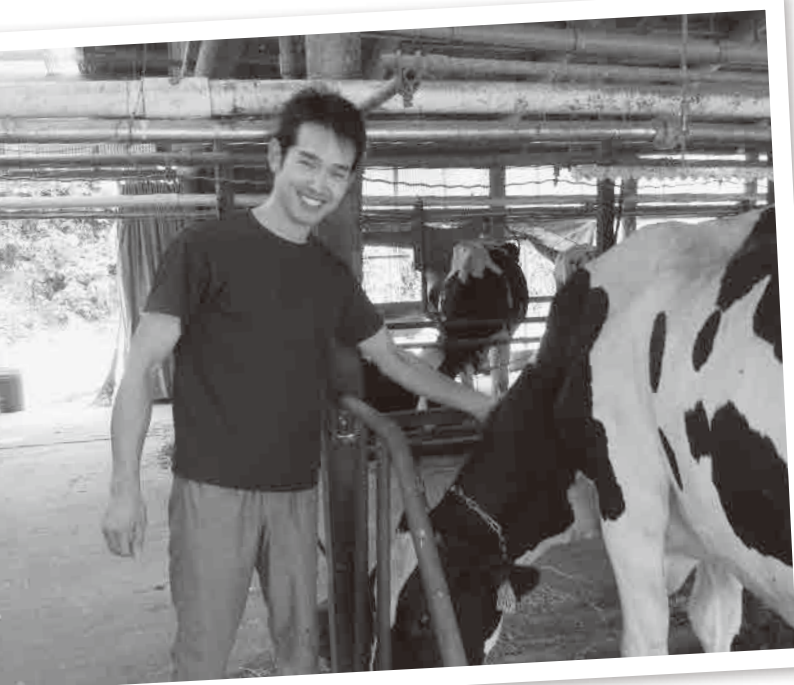
※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

※()の取扱金額は、「生乳」の全国再委託販売手数料等の金額、及び当該金額を取扱金額とした合計値。

収支計画の売上高及び損益計算書の事業収益は、この金額で表記する。

栗原市は、宮城県の北部に位置し、2005年に10町村が合併して、宮城県一広い市町村として誕生しました。西北部には宮城県、岩手県、秋田県にまたがる登山や観光で有名な「栗駒山」が在ります。紅葉の名所で、秋には山一面が真っ赤な絨毯のようになります。市の南部には、登米市と接する形で、日本一のおおくちヨウ飛来地と言われる「伊豆沼・内沼」が在り、多くの観光客が訪れます。

熊谷牧場は、旧の町村では金成町に在り、岩手県との県境です。旧金成町としては、現在酪農家は3戸とのことですよ。



▲ 熊谷耕一さん

今回は、宮城県栗原市熊谷牧場の後継者 熊谷 耕一さんにお話を伺いました。

就農までの経緯

短大を卒業後4年ほど酪農設備の会社に勤め、Uターンで実家に戻り就農しました。

これと言って決め手になる出来事は無かったのですが、会社勤めをしている際に、ほとんどのお客さんの農場で後継者がいなくて、「後継者がいないから後は止めるんだ。」という話をよく聞きました。だったら自分は酪農を継ごうかなと思いました。就農して9年目になります。

就農してみても

ある程度時間の融通は利きますが、休みが少なく大変ですよ。ヘルパーは毎月利用しているのですが、利用時でも父親と交代で牛舎に入る必要があります、連続して休日を取るのが大変ですよ。家族で旅行に出かけたりするのは年に数回程度です。日々の中ではある程度時間の融通が利くので、酪農の勉強もしていますが、趣味にも充てています。趣味としては、スポーツカーでのドライブ、カメラでの写真撮影、そして冬場は薪ストーブで楽しむなどです。日中空いた時間で雑木などから薪作りもしています。

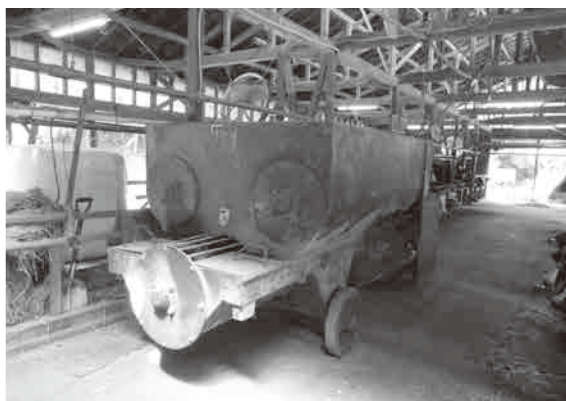
酪農に対する思い

乳量や繁殖成績など、日々結果がでるのでやりがいがある楽しいですよ。そしてなによりも牛



▲ 牛舎内部

がかわいいですよ。牛群検定は以前から行なっていました、見方を教えてもらったり勉強して、活用できるようになってきました。そして酪農の先輩方、獣医の先生、組合職員の方などからアドバイスももらって、それを実践してみることも大切なことが解ってきました。例えば、クローズアップ期の管理を教えてもらって実践してみると、第四胃変位や低カルシウム血症などの病気が明ら



▲ 飼料ミキサー



▲ 趣味の薪ストーブ



▲ 趣味のスポーツカー

若手後継者の本音

Vol.58

[経営概況]

所 属 みやぎの酪農農業協同組合(伊藤一成代表理事組合長)
家族構成 熊谷耕一さん(33歳)、奥さん、娘さん、お父さん、お母さん
飼養頭数 経産牛35頭、育成牛(子牛含む)18頭
労働力 本人、お父さん、お母さんの3人
自作地 牧草地10ha、水稻・稲ホールクロップ

失敗、勉強し、実践！

将来は？

かに減りました。お金や時間を費やさなくてもよくなりました。

経営については、両親任せで全くと言っていいほど理解していません。例えば機械代などを年間いくら払っているとか知りません。現在は給料をもらって(奥さんも保育士としてお勤め)家族で生活していますが、徐々に習得して行くことにします。

飼料、燃料、電気等ほぼ全てのものが値上がりしていて、世界的な食糧・環境問題がある中で、規模拡大は考えず、様子を見ながら現状維持で生き抜いていきたいと思っています。また、自営だから休みがないという時代ではないと思うので、雇用をして休みを増やしたいです。

お父さんから耕一さんへ

今の酪農業は非常に厳しい状況が続いていますが、日常の作業ばかりではなく、今後経営についても、しっかり勉強してもらいたいです。



▲ 牛舎と飼料タンク



全国の若手後継者の皆さんへ一言！

やりたいことがあったら、(両親から仕事を)奪ってでもやりましょう。なので、たくさん言い合ひましょう。そして、言い合うためにしっかり勉強しましょう。私もまだまだ失敗していますが、失敗は早いほうがいいです。



よくある質問

Q1 公金受取口座登録制度について（総論）

➡ https://www.digital.go.jp/policies/account_registration_faq_01/



Q2 公金受取口座の登録について

➡ https://www.digital.go.jp/policies/account_registration_faq_02/



Q3 所得税の確定申告手続きにおける登録について

➡ https://www.digital.go.jp/policies/account_registration_faq_03/



3 健康保険証として使えます。

マイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）は、本人が同意をすると、医療機関・薬局において薬剤情報や特定健診情報等が閲覧可能となり、従業員にとってより良い医療を受けられることにつながります。また、健保組合等の医療保険に係る事務のコスト縮減が期待できます。

なお、健康保険証利用ができる医療機関等は厚生労働省HP※6で公開しております。

※6 「マイナンバーカードの健康保険証利用対応の医療機関・薬局についてのお知らせ」

➡ https://www.mhlw.go.jp/stf/index_16743.html



4 薬剤情報や特定健診情報等がマイナポータルで確認できます。

マイナポータル※7で、自分の薬剤情報や特定健診情報等※8の閲覧が可能となり、自身の健康管理に役立てることが可能となりました。また、医療費通知情報も閲覧でき、医療費控除の申告手続きが簡素化されます。

※7 マイナポータル

「マイナンバーカードの健康保険証利用」

➡ <https://myna.go.jp/>



※8 薬剤情報は令和3年9月に診療したものから3年分、特定健診情報は令和2年度以降に実施したものから5年分（直近5回分）の情報が閲覧できるようになります。

5 新型コロナワクチンの接種証明書（電子版）が取得できます。

新型コロナワクチンの接種証明書（電子版）について、スマートフォン上で専用アプリから申請・取得し、表示可能となりました。接種証明書（電子版）の申請には、マイナンバーカードが必要となります。

●詳細はこちらから

デジタル庁HP：

新型コロナワクチン接種証明書アプリ

➡ <https://www.digital.go.jp/policies/vaccinecert>



ダウンロードはこちらから

App Store：

新型コロナワクチン接種証明書アプリ
(apple.com)

➡ <https://apps.apple.com/jp/app/id1593815264>



Google Play：

新型コロナワクチン接種証明書アプリ

➡ <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.go.digital.vrs.vpa>



デジタル庁・総務省からのお知らせ

マイナンバーカードの メリット拡大について

① マイナポイント第2弾が 開始しています。

マイナポイント第2弾では、次のとおり最大20,000円相当のマイナポイントがもらえます。

ア マイナンバーカードを新規に取得した方等
に対し、最大5,000円相当のポイント

※1、2

イ 健康保険証としての利用申込を行った方
に対し、7,500円相当のポイント

ウ 公金受取口座の登録を行った方に対し、7,500
円相当のポイント

アは令和4年1月1日から既にポイントの申
込・付与が開始しています。イ及びウについては、
令和4年6月30日からポイントの申込・付与が
開始予定です。なお、マイナポイント第2弾につ
いては、令和4年9月末までにマイナンバーカー
ドの交付申請をされた方が対象です。

6月30日に開始予定のイ及びウについては、
既に健康保険証としての利用申込をされている
方、公金受取口座を登録済の方も対象です。

最新の情報は、「マイナポイント事業」HP※3
をご覧ください。

※1 マイナポイントの申込後、選択したキャッ
シュレス決済サービスでチャージまたはお買
い物をする必要があります。

※2 マイナンバーカードを既に取得した方のうち、
マイナポイント第1弾の未申込者も含みます。

※3 「マイナポイント事業」

➡ [https://mynumbercard.
point.soumu.go.jp/](https://mynumbercard.point.soumu.go.jp/)



② 公金受取口座登録制度が 始まりました。

公金受取口座登録制度※4は、国民の皆様
に一人一口座、給付金等の受取のための口座を、
国（デジタル庁）に任意で登録していただく制
度です。

これにより年金、児童手当など、今後の給付金
などの申請の際に、口座情報の記入や通帳の写し
等の提出が不要となるほか、行政機関の書類確認
が省略でき緊急時の給付金などを迅速に受け取る
ことができます。

この公金受取口座については、令和4年3月
28日からマイナポータルで登録※5が出来るよ
うになっています。

※4 公金受取口座登録制度の詳細は、デジタル
庁HPをご確認ください。

デジタル庁HP

「公金受取口座登録制度」

➡ [https://www.digital.go.jp/policies/
account_registration/](https://www.digital.go.jp/policies/account_registration/)



※5 口座の登録をもって、給付金の申請が完了
するわけではございません。別途申請などが
必要になります。

第50回

酪農経営発表の部

全国酪農青年女性酪農発表大会①

中野大樹さん(北海道会議)が農林水産大臣賞を受賞!!

風間健太さん(九州会議)が審査委員長特別賞を受賞!!

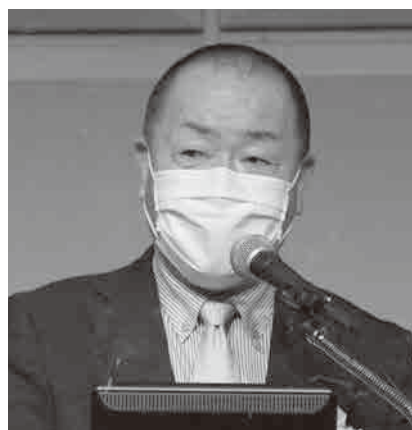
7月14日(木)～15日(金)の両日、東京都江東区『ホテルイースト21東京』において全国の酪農生産者及び関係者250名余りが参集し、『第50回全国酪農青年女性酪農発表大会』が開催されました。

大会は、小倉副委員長による開会宣言で始まり、砂子副委員長による綱領唱和と続きました。

主催者挨拶で小森委員長は、『昭和46年の第1回大会からおよそ半世紀。本日50回の記念大会を迎えた。これまで継続できたのは、地域代表の諸先輩方のご努力と事務局を担っている全酪連、農林水産省はじめ大会の後援協賛をいただいている関係機関・関連団体、そして何より素晴らしい発表をしていただいた発表者の皆様、大会に参加し一緒に学び交流を深めてきた全国の酪友の皆様の協力のおかげです。』と感謝を述べました。自身の大会の初参加が口蹄疫と東日本大震災によって3年ぶりに開催された平成24年の41回大

会であったことにも触れ、『今年の大会もコロナ禍で3年ぶりの大会となり、その間組織活動は自粛または制限が余儀なくされ、酪友の絆が希薄になっていっているような気がする。今、酪農環境は非常に厳しく、個々の経営を圧迫している。このような状況だからこそ、この大会から日本の酪農に元気を発信していきたい。』

少しずつ動き出した組織活動を応援していきたい。』と述べました。さらに、『50回は区切りであり新たなスタートです。先輩から受け継いだ守るべき伝統はしっかりと受け継ぎ、その時代時代に合わせて新しい考え方を取り入れより魅力ある酪農大会を酪友の皆様と作りたい。』と述べました。



▲全酪連 限部会長



▲全国酪青女 小森委員長

また、本会限部会長は、『今、コロナ禍による需給の乱れ、生産資材の高騰、ウクライナ侵攻による国際相場の変動、円安と、悪い事象がたくさん重なっており現場は苦しんでいる。その中で、各指定団体は期中の乳価値上げ交渉を行っている。しかしながら、乳価が上がれば小売価格も値上げとなるが、値上げとなっ

た時に消費者がついてくるかという問題もあり、消費者に対する理解醸成もしっかりと行っていくかなければいけない。厳しい折ではあるが、全酪連もしっかりと生産者に寄り添い、できることはしっかりとやっていきたい。』と述べました。また、自身が平成16年から全国委員長を務めたことにも触れ、『発表者は、自

分の思いを多くの人の前で話すことが、その思いに向かって進んでいく大きな勇気となる。発表の準備で、地元の振興局や畜産協会、普及所、会員組合職員、全酪連職員などの関係者の協力を得ながら作り上げたろうが、今後、その時の輪が非常に大切になる。人材育成も行っていく

この組織、この大会が末永く続くことを切に願う。』と述べました。続いて、ご来賓として、最初に農林水産省畜産局長渡邊洋一氏より祝辞をいただきました（代読：農林水産省畜産局企画課畜産経営安定対策室長岡岡亮介氏）。「本日ご参集の皆様におかれましては、日頃から我が



▲ 酪農経営の部で最優秀賞の中野大樹さん

国の酪農乳業の発展に尽力いただき感謝申し上げます。本日の全国酪農青年女性酪農発表大会は50回の節目の大会と伺っています。ここ2年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、やむなく中止や、リモートでの開催でしたが、今回は一般の方にもお越しいただき会場にて開催されましたこと、誠におめでとうございます。

この発表会では全国各地域での審査を経た12名の方々が経営の成果や工夫、貴重な意見・体験を発表されると承知しています。選ばれた発表者の皆様方に対しまして、心

からお祝い申し上げるとともに、本日ここに至るまでのご努力に深く敬意を表する次第です。

さて、最近の酪農乳業をめぐる情勢をみますと、長引くコロナの影響等により、生乳需給が継続的に緩和する中、生産コストの高騰が同時に起きるという大変厳しい状況にあると認識しています。そのため、多くの関係者のご協力のもとで牛乳乳製品の消費拡大や乳業メーカーにおける工場のフル稼働等に取り組んでいただいているところであり、需要期である夏を迎えるにあたり、更なる需要の増加に期待しているところです。

政府といたしましては、4月28日に原油価格・物価高騰等総合緊急対策を決定し、配合飼料価格安定制度における異常補填基金の積み増しや、民間積立分の繋ぎ資金の供給、粗飼料の確保、金融支援対策の充実等の支援を講じました。合わせて、生産コストの上昇分が取引価格に適切に転化されることが重要と考えており、乳業メーカーを含む食品事業者に対し、コスト上昇の取引価格への適正な反映について協力を要請しています。引き続き農林水産省とし



▲ 渡邊畜産局長の祝辞を代読する農林水産省畜産局企画課岡岡室長

ましては、需給動向を注視しつつ、酪農の経営基盤が維持され牛乳乳製品の安定供給が確保されるよう、生・処・官が一体となって検討し必要な支援を行ってまいります。

また国際的には、SDGsや環境負荷軽減等を重視する持続可能な食料システムの構築が大きな潮流となっています。7月1日にみどりの食料システム法が施行されましたが、みどりの食料システム戦略の実現に向けた施策の展開によってグリーンな生産体系への転換を進めていくとしております。牛乳乳製品をはじめとする農畜産物を継続的に安定供給できるよう精力的に取り組んでまいります。

さて、今、酪農は生乳需給の緩和と生産コストの高騰という大変厳しい状況の中、本日我が国の酪農を担

う若手、女性生産者の方々が一堂に会し貴重な意見や体験を発表されることは誠に時宜に合った意義深いものと考えています。発表者の皆様の経営分析とその成果、様々な工夫や改善、発想の転換、地域での活動がお互いの生産者にとってお手本となつて今後の我が国酪農の未来を担う優秀な経営者が多く育っていくことを期待する次第です。」

続いて、東京都産業労働局農林水産部長の山田則人氏より、

「本日は、節目となります第50回全国酪農青年女性酪農発表大会が、ここ東京都で開催されますことを非常に誇りに思います。

現在の日本の酪農の状況ですが、乳牛飼養頭数や生乳生産量は増加していますが、酪農家戸数は減少しているという状況で、これは東京都も同じです。

北米による穀物の不作、円安、ウクライナ情勢による穀物の価格上昇、原油の上昇、資材の上昇も重なり、酪農家の皆様におかれましては大変厳しく、不安な状況が続いているものと理解しています。こうした状況下、東京都を含めた各自治体におきましては、配合飼料の価格が上



▲ 東京都産業労働局農林水産部 山田部長

昇した場合のセーフティネット、価格安定制度がありますが、酪農家さんの負担の部分につきましても支援をしているところです。

自治体により、それぞれ支援の内容は異なっていますが、我が県、我が国の酪農を守るんだという意気込みのもと、行政の責務として皆様方を支援させていただいているということを、ご理解いただければと存じます。

さて、東京都の酪農について少しお話させていただきます。

東京では酪農をやっていないだろう、と思われるかもしれませんが、小規模ではありますが酪農が営まれています。戸数については前年より減少して43戸ですが、乳牛飼養頭数は7年ぶりに増加し1,476頭、生乳生産量は5年ぶりに増加し

約9,000tの生産となっています。東京都酪農協同組合を中心として多摩地区（東京西部）の酪農家と、乳業メーカーが共同し、『東京牛乳』というブランドの名前で牛乳を発売しております。

東京都では酪農家の皆様に支援するために、生産性の向上や省力化、設備の導入支援、酪農ヘルパー利用の助成など様々な事業を行っています。そのような中、昨年は補助制度を利用して、最新の全自動搾乳ロボットを導入した酪農家さんがいます。導入により確保した6次化にも取り組まれ、地域の交流にも活用されるなどの取り組みもあります。

ここにご出席されている皆様におかれましては、事業規模、システムの違い、気候の違いなど、それぞれの条件を考慮して、できる限り効率的な酪農を営まれていると感じています。

今回その中から12名の方が、酪農経営の先進事例や酪農に関する意見・体験に関する発表があると伺っています。このような発表の内容は参考になることが多いので

はないかと思っています。この発表を契機として酪農業に関する情報の共有、酪農家の皆様の交流の場としてこの大会が運営されていると思います。最後になりましたが、このような盛大な大会を運営している事務局に敬意を表しますとともに、ご出席されている皆様のご健勝、今後の酪農業の発展を祈念いたします。」と祝辞を述べられました。

開会式に続き、地域の代表者から、酪農経営の部と、意見・体験の部の発表が行われました。発表内容は、審査委員長による審査講評にて代えさせていただきます。

酪農経営発表の部 審査講評



審査委員長 原田 淳氏

審査に当たりましては、①酪農経営の収益性、②経営の安定性・発展

性、③飼養管理技術水準、④資源循環型酪農の実践、⑤食品の安全性への配慮、⑥組合・地域活動の貢献という6つの大会審査基準に基づき、厳正な審査を行いました。

今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新の技術に関心を持ち実践で活用し、酪農経営の安定性と収益性の確保に努力されているだけでなく、自給飼料の確保、堆肥の活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいる様子を見ると、うかがい知ることができ、今年もまた審査委員一同大いに感心いたしました。

以下、審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期待したい点について、申し上げます。



酪農は生き方だ!!
—地域に根ざした酪農経営に向けて—

東北酪農青年女性会議

福田正幸氏

福田正幸氏は福島県会津美里町で酪農を営む2代目で、既に後継者も就農しています。

ワークライフバランスやタイムマネジメントと言った考え方が、他の発表者と比べて高い労働力当たりの経常所得となつて現れています。

また、酪農教育ファームの実践や地域の自立支援組織からの障がい者の受け入れなど、幅広い世代と触れるイベントの企画は、酪農の魅力を伝えたいという狙いがはつきりと感じられますし、東日本大震災をきっかけとして始めた移動カフェは他にない独自の取り組みで、今後の展開に期待が持てます。



人を生かす酪農経営
—中野牧場が目指す地域貢献—

北海道酪農青年女性会議

中野大樹氏

中野大樹氏は北海道鹿追町で酪農を営む会社の社長です。

経産牛約400頭という規模でありながら、高い反収によって自給飼料を中心とした給与を実現しています。

1日8時間労働かつ週休2日で十名以上の雇用を導入しており、それでいて労働力当たりの経常所

得が他の発表者と比べて高い水準にあります。更なる規模拡大も余裕でできると思われますが、それよりも従業員の週休3日を提案するという考え方に経営者としての資質を感じます。

さらに、農場HACCP取得や新規就農者への支援活動については、発展性が大いに期待されます。



更なるSTEP UPを
—常にチャレンジ精神—

関東甲信越酪農青年女性会議

小澤雄太氏

小澤雄太氏は長野県南箕輪村で営まれている酪農経営の後継者です。都府県酪農において経産牛70頭以上と飼養頭数が多いにも関わらず、本人が就農してから7年の間に自給飼料畑を3割増やすなど、粗飼料自給率の高いことが特筆されます。

にもかかわらず、経産牛1頭当たりの経常所得や労働力当たりの経常所得といった生産性の指標で、他の発表者と比べ高い値を示していることが評価されます。



基本に忠実に
—ゆとりある経営を目指して—

西日本酪農青年女性会議

河野裕喜氏

河野裕喜氏は愛媛県宇和島市で酪農経営を営む2代目です。

先代が建てた既存の設備を補改修しながら有効に活用し、自給飼料生産のための作業機械を共同購入することなどで、経産牛1頭当たりにおける借入金残高、減価償却、借入金償還負担額が他者より優れており、財務的に堅実な経営であることが評価されます。

今後は、周辺で増加している耕作放棄地を活用した自給飼料生産の拡大に期待します。



人と人との関わりを大切にする経営
—こんには芳山牧場です(笑)—

中部酪農青年女性会議

芳山誠氏

芳山誠氏は愛知県常滑市において、外国人を含む従業員を雇用し酪

農経営を営んでいます。

従業員とのコミュニケーションを大切にする経営を行うことにより、経営者が外を回っていても作業が滞らない体制が築かれています。そうした基盤があるので、外に出て堆肥の販売促進を自分で行うことが可能になっています。そうして外に出て集めた情報を牧場経営に還元するという、人と情報の循環が評価されます。



新規就農者の挑戦 —「出会い」と「夢の実現」—

九州酪農青年女性会議

風間健太氏

風間健太氏は熊本県菊陽町で、平成27年に新規就農しました。

しかしながら、単味飼料を調査して生産性を維持し、分娩間隔が極めて短く、繁殖管理の徹底と次期乳期の生産性確保に努力しているなど、観察から始まるという基本を徹底した技術的な水準は、高く評価されます。

経営管理においても、経営資金を3つに区分して別々の口座で管

理し、猶予期間にも資金を積み立てて借入金の返済に備え、計画通りあと5年で完済の予定であるだけでなく、運転資金も蓄えた上で、借りていた施設を購入しています。そして自分のことだけではなく、新規就農希望者との交流を通じて、地域貢献も行っていることは非常に高く評価できます。

なお、全体を通して審査委員が評価したポイントは、以下の通りです。

まず、粗飼料の国内調達や、長命連産への取り組み等が目立ちます。更にはピーク乳量のコントロールや給与管理技術の向上、繁殖管理技術の改善の様子もうかがえます。

各牧場共に糞尿の良質堆肥化を図っていますし、自家消費しきれない部分は、近隣の耕種農家への積極的販売（無償・散布）など努力を行っています。

副産物の高付加価値により生乳販売以外での収入拡大に向けた取り組みがなされている点も評価できます。

後継者の育成、または従来とは違った雇用の使い方がみられ、今後

の経営の可能性の模索が行われていました。

各者各様に勉強会やイベントを主催したり、またそれに参加したりすることによって、地域とのつながりを作っていました。そして、地域活動の範疇を超えて、多様な人々との連携を模索する活動も見られました。

何より、発表を聞いて、皆さんが経営者としての考え方をしっかりとわかってきました。

以上を踏まえての審査結果ですが、初めに述べました6つの審査基準全般で好成績をあげた北海道会議の中西さんを最優秀と決定いたしました。審査委員一同、6つの基準で一步リードしていると評価をいたしました。

なお、惜しくも最優秀の選には届かなかったものの、ほぼ互角の成績を新規就農7年目にして達成している九州会議の風間さんに、審査委員長特別賞を授与することと致しました。

最後になりますが、あらゆる資材の価格が高騰する一方で、牛乳・乳製品の消費は停滞しているため価格

転嫁も簡単ではありません。もちろん生産性向上は一番に求められることですが、安い資材価格を前提とした規模拡大で低コストを追求することは難しくなりました。コスト構造の再検討、つまり自給飼料の位置づけを考えることが求められています。一方で、乳価向上のためには、牛乳や乳製品の価値を見直す必要がありますが、それは生産者のみでできるものではありません。消費者、中でも近隣住民とどのような関係を構築できるかが問われています。酪友のコミュニティを拡張することによって、消費者・応援団にとどまらず酪農ライフのパートナーとなつてもらう方向性が、今回の発表の中にも現れていました。

発表者の方々にとどまらず、本大会で示された皆さんの情熱の一端を是非振り向けていただきたいと思います。

酪農意見・
体験の部は次号に
掲載いたします。

特選



「お引越し」

東北酪農青年女性会議 佐久間幸枝 氏

酪農家の皆様より応募いただいた40点の中から、第50回全国酪農青年女性酪農発表大会参加者の皆様による投票で入賞作品を6点選出させていただきましたのでご紹介いたします。
たくさんのご応募、ご協力ありがとうございました。

第12回 酪農いきいき フォトコンテスト

入賞作品紹介

入賞



「たくさん取れたよ」

九州酪農青年女性会議 長塩美穂 氏



「はじめまして」

北海道酪農青年女性会議
荻野和美 氏



「おいしい牛乳をありがとう」

関東甲信越酪農青年女性会議
関和大樹 氏



「たくさん食べて おおきくな〜れ」

九州酪農青年女性会議 早田千幸 氏



「牛乳最高！」

九州酪農青年女性会議 隈部雅子 氏

入賞作品6点に加え、ご応募いただいた作品の中から、全酪連会報およびカレンダーへ掲載させていただきます。

また、各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますので、ご了承ください。

栃木県

●栃木県酪農青年女性会議

・ぐるとち2022

日時：5月21日(土)

牛乳の配布及びミルメークの配布を行い牛乳の消費拡大PRを行いました。



父の日に

牛乳

を贈ろう!

今年も全国各地でキャンペーンを実施!

後編

●栃木県酪農青年女性会議

・那須塩原市長表敬訪問

日時：6月15日(水)

県産牛乳を贈呈し牛乳のPRを行いました。



●栃木県酪農青年女性会議

・栃木県知事表敬訪問

日時：6月20日(月)

県産牛乳を贈呈し牛乳のPRを行いました。



●新潟県酪農同志会

日時：6月18日(土)

場所：JA北越後農産物直売所「こったま〜や」

内容：来店者の方へミルメークと牛乳を配布。天気にも恵まれ、開店から2時間で予定数を配り終え、皆様に大変喜んで頂けました。



●新潟県酪農同志会

日時：6月22日(木)

場所：JA新潟かがやき農産物直売いっぺこ〜と



新潟県

福岡県



●ふくおか県酪農協同組合

・ふくおか県酪農×福岡ママプロジェクト

日時：6月13日(月)

『牛乳について学ぼう! オンラインセミナー〜ふくおか育ちの美味しい牛乳〜』を開催しました。

ゲストMCに福岡のお笑い芸人、ブルーリバーの青木淳也さんを迎え、会場参加とリモート参加の同時開催となりました。青木さんと一緒に牛乳に関する知識をクイズ形式で学びながら、軽快なトークに会場は大盛り上がりでした。

三重県

●三重県酪農女性会議

- ・小学生1、2年生
庄司牧場訪問

日時：6月2日(木)

ミルメーク、グッズ25個
を配付



●三重県酪農女性会議

- ・高橋牧場が保育園を訪問

日時：6月14日(火)

ミルメーク、グッズ50個
を配付

●三重県酪農女性会議

- ・渡邊牧場が小学校・
保育園を訪問

日時：7月7日(木)



長崎県

●長崎県酪農青年女性会議

- ・佐世保市長表敬訪問

日時：6月28日(火)

地元生乳を使った牛乳・乳製品の贈呈、試飲を行った。
一般来庁者には牛乳やミルメークなど150個を配布し、
理解醸成活動を行った。



●宮崎県酪農青年女性連絡協議会

- ・河野知事への贈呈



- ・農政水産部長への贈呈



宮崎県

沖縄県

●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

- ・照屋副知事表敬訪問

日時：6月18日(土)



日本酪農 見と歩 紀

No. 350

水本マーク牧場
兵庫県南あわじ市阿万

水本マークさんの 酪農大冒険

所属酪農組合について

今回は、兵庫県酪農農業協同組合（以下、兵庫県酪農協）に所属する、「水本マーク牧場」についてご紹介させていただきます。

まずは、兵庫県酪農協について概要をお話します。

兵庫県酪農協（吉川稔英代表理事組合長）の令和3年度の年間生乳生産量（出荷量）は、約4万tです。組合員数は淡路島内での酪農業が盛んな事もあり、兵庫県本土側よりも多い状況になっています（令和3年度末では、淡路地区の生乳出荷軒数は92軒となっています）。

南あわじ市の紹介

兵庫県南あわじ市は、兵庫県の最南部に位置します。全国的に有名な玉ねぎの生産地でもある淡路島の中でも一番、南側の市町村です（淡路島には、淡路市・洲本市・南あわ

じ市の3つの市があります）。

南あわじ市は、大鳴門橋を通じて四国と結ばれており、徳島県へのアクセスも近いです。世界三大潮流の一つである、鳴門海峡の渦潮、日本夕日百選である慶野松原、そして淡路人形浄瑠璃といった観光資源も沢山あります。



▲ 水本牧場・看板



兵庫県南あわじ市阿万



▲ 肇さんとマークさん

玉ねぎに加え、レタス生産も盛んであり、和牛・酪農の畜産業も大変盛んなエリアです。気温も温暖で、過ごしやすい地域が特徴の南あわじ市です。

水本牧場の概要

経営者は、水本マークさん。牧場住所は、兵庫県南あわじ市阿万です。家族は、マークさんを含め、4人。奥さんの、真由美さん、子供の、さくらちゃん、大智くん。牛舎作業は、マークさんと前経営者である、御祖父様・肇さんの2名で行なっております。

飼養頭数は、経産牛が25頭、育成牛が5頭。令和3年度の生乳出荷乳量は、202t（年間）となっています。

飼料給与体系は、自給飼料のイネWCSに加え、購入飼料を合わせる体系です。

購入飼料は、配合飼料、輸入乾牧草のクレイングラス、オーツヘイ、ビートパルプです。最近では、近隣の豆腐屋さんからおからも取寄せ、貴重なたんぱく源となっています。

①牧場の沿革・歴史について

水本牧場の歴史は、マークさんの祖父（＝肇さん）の時代に始まりました。肇さんが中学校を卒業した16歳のころに、肇さんの父が親子ペアの牛を1組買った事が始まりとなります。

肇さんが24歳の頃、最初の牛舎を建設しました。肇さんが40歳になる頃、24頭まで搾乳出来る牛舎に増設しました（現在は26頭まで搾乳可能です）。

ここから数頭の増減はあったものの、現在の水本牧場に至ります。

現経営者のマークさん一家は転勤族で、マークさんは宮城県で生まれました。5歳まで宮城県で過ごし、

その後、千葉県に引越し、11歳まで過ごしました。その後も、両親の仕事の関係で、神奈川県に引越し、大学進学となります。大学時代、休日には淡路島に戻ってくる機会もあり、そこで酪農作業の楽しさ・やりがいを感じます（幼少期より、牛を見たり、触ったりした事はあったものの、酪農作業を本格的に始めたのは19歳の夏です）。

そこから、本気で酪農に就農される事になり、肇さん（祖父）と共に牛舎で働く事になりました。

②水本マーク牧場の誕生！

昨年、肇さんよりマークさんに経営移譲となり、現在に至ります。これまで、祖父の下で酪農に携わって来たマークさんでしたが、これからはマークさん主体で水本牧場の経営をしていかねばなりません。

やはり、経営移譲（＝組合員名義変更）の時には、マークさんの中でも大きな不安が募ったと言います。

これまでは、「肇さんの牧場で祖父より給料をもらっている」という意識があったそうですが、経営移譲後には、「自らが酪農でお金を生み出さなければならぬ」という意識に変わったそうです（今でも牛舎作業は



▲ 肇さんの搾乳

肇さんで行なっています）。

また、マークさんが驚いたのは、「入金額（収入）が大きい事」に加え、「出金額（費用）が大きい事」だということです。酪農は大きな稼ぎがあるものの、飼料費・機械メンテナンス費用、その他牛舎設備費など、出て行くお金も大きいという事に初めて気づいたと言います。

③経営のこだわり

・牛舎環境を整備して、牛へのストレス軽減を考えています！

マークさんとはにかく牛を第一に考え、どのようにしたら牛にストレ

スがないように出来るか日々模索しています。昨年、経営者に変わり、幾つか変えられる点に取り組んでいます。

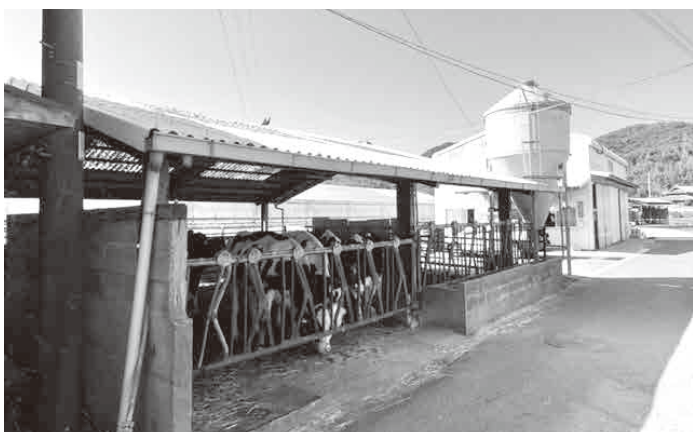
1つは、「飼槽をステンレスに変えた事」です。レジン塗装では、牛が舐めると捲れ、長年使うと剥がれてしまします。今まではデコボコのコンクリートの飼槽でしたが、牛が食べづらいように感じ、またエサが残った時には、隙間に入り込み、匂いが残っていたと言います。ステンレス加工したことで、掃除もしやすく、残飼量も少なくなりました。



▲ クレイン給与

2つは、「ウォーターカップを深さのあるものに変えた事・加えてホースも変えた事」です。今までも自由飲水が可能でしたが、今の方が牛にとって十分に水分を摂取する事が可能です（水がこぼれにくくなりました）。水分の摂取量は乳生産に大きく関わってくる事なので、非常に大事な取り組みです。

3つは、「地下水・井戸水を使わなくなった事」です。地下水ではなく、水道より取水しています。汚濁した水を使わない事で、牛への健康（アニマルウェルフェア）に配慮し



▲ 育成パドック

ています。

・牛群検定（牛検）を活用して、牛の個体別管理を行なえるようにしました！

水本牧場では数十年前に牛検は行なっていました。今まではやっていませんでした。マークさんが経営者になり、2022年4月より牛検を再開しました。これまで個体別の乳量・乳質について把握する事が出来ませんでした。牛検を始め、可能となりました。

マークさんは乳

牛1頭1頭、乳質の状態が違う事を考慮し、牛検結果から、搾乳順番を日々変えるようになりました。曳いては乳房炎の予防に繋がり、飼料給与メニューも個体別で変え、それぞれの牛に合った飼いを目指しています。

・畑作との兼業で、作物の相場リス



▲ マークさん・子牛抱っこ

クを分散させています！

淡路島ならではですが、乳牛のみで農業経営を成立させている酪農家さんよりも、玉ねぎ農家・レタス農家・米農家と兼業しながら、経営されている農場が多いです。マークさんの感覚では、酪農部門が50%、畑部門（玉ねぎ・レタス）が50%とい

うイメージで、酪農だけではありません。

レタスの植え付けは9月、収穫は10月～翌5月まで。玉ねぎの植え付けは1月、収穫は6月というスケジュールになっています。

現在、ご存知の通り、過去にない異例の飼料価格暴騰が起きています。どんなに上手な飼養管理をしても、経営状況が厳しいです。配合飼料に加え、輸入粗飼料価格も極めて厳しい状況です。そんな中、酪農以外にも稼ぐ方法があれば、多少のリスク分散が出来ると思います。



▲ さくらさんと牛

④ 周辺地域での活動、取り組み

若手酪農家で構成される「ゆずるは4日」というクラブがあります。月に一度、集まって、牧場視察の立案や、研修会の開催、加えて、情報交換などの活動を行っています。酪農に対して、熱い思いを持った若手就農者が多く、非常に活気があり、良い刺激を受けているそうです。

⑤ 周辺地域とのつながり

・牛から出る排泄物（堆肥）他農業への貢献

人と同様、牛は排泄を行ないます。それも、人とは比較できない量の糞尿を排泄します。そのままであれば、何も使えないですが、良質な堆肥にすることで、米・レタス・玉ねぎの栽培肥料として利用しています。

化学肥料原料が高騰する中、改めて有機肥料（堆肥）の活用が見直されていますが、周辺農家との繋がりも大事という事が伺えます。

・地元豆腐屋より出るおからの利活用
2022年産アルファルファが異例の高騰予測がある中、水本牧場では最近、地元の豆腐屋より副産物である、おからを入手しています。

豆腐屋からすれば、人用には使えない部分で、処理には産業廃棄物の

処理費用が掛かります。しかし、水本牧場にゼロ円で提供することで、費用削減に繋がっており、お互いwin-winの関係になっています。

元来、畜産業では人が使えない部分を家畜に利用する事で、儲けを得て来ました。その

スタートを再認識できる取り組みを水本牧場では行なっています。「助けると助かる」が同時に出来る取り組みです。

今後の夢・目標

- ・乳牛の個体能力を上げたい！
- ・人力から機械化・作業効率アップ！

最後に…取材していて驚いた事…
人との出会いは分かりません…

経営者の水本マークさんですが、ドイツ人と日本人のハーフです。マークさんのお母さん（美和さん）とお父さん（ディアク・リーヒェルマン）の出会い、国際文通だそうです。



▲ 朝のマークさん

元々、マークさんのお母さんの妹がハマりだしたのですが、その影響でお母さんも始めました。その文通相手が、マークさんの父親だったという事です。文通を通して、知り合い、会うためにドイツの航空会社CAになり、結婚に至ったそうです。

また、マークさんと奥さん（真由美さん）の出会いは、マークさんがハーレーで喫茶店巡りをしていた際に、真由美さんが働いていた美容室のオーナーが来ていて、そこで話が盛り上がった事にあります。その後、オーナーの紹介で真由美さんと知り合い、気が合い、結婚に至ったそうです。

（M・TAKIZAWA）

酪農部
発朝から牛乳をグッと飲んで一日元気に!!
「グッとモーニングミルクアクション」開催

近年、早朝の仕事が始まるまでの時間を活用し勉強や趣味にいそしみ生活をより充実させる活動を“朝活”と呼び、なかなか自分のための時間を作れない多忙な社会人などを中心に取り組む人が増えるなど、ひそかに盛り上がりつつあります。

本会本所が所在する東京・代々木でも、早朝から出勤前の会社員などが勉強会やジョギングのため多く往来しており、本会酪農部としても、そうした朝活に励むみなさんを牛乳で元気づけよう!!を合言葉に、2022年7月7日に牛乳配布イベント「グッとモーニングミルクアクション」を酪農会館エントランスで開催しました。

本イベントでは7時半から牛乳配布による消費拡大と酪農情勢への理解醸成を呼びかけるため近隣住民に事前告知したところ、開始時間には既に多くの人が

行列を作るなど盛況となりました。

訪れた来場者からは

「牛乳を飲むと一日頑張れる気がする」

「健康に良いとわかっていても大人になってから牛乳を自分で買って飲む習慣がこれまでなかった。これを機会に朝一杯の牛乳を習慣にしてみたい」

「飼料価格の高騰により酪農家が苦しんでいるというニュースを見た。牛乳を飲んで生産者を応援出来れば」といった声が寄せられました。

なお、本会は農水省とJミルクが新たに立ち上げた牛乳消費拡大活動“牛乳でスマイルプロジェクト”に参加することとなり、本イベントはその最初の取り組みとなりました。今後は、本会独自の取り組み「I ♥ MILKAction」と連動した展開も期待されます。

(A.M)



仙 台
支所発東北酪農専門団体協議会
「視察研修」を実施

東北酪農専門団体協議会（会長：紺野宏氏（福島県酪農業協同組合 代表理事組合長））は、7月19日(火)、岩手県二戸市に立地する全酪連北福岡工場の視察研修を行いました。

安価な価格競争や生乳生産基盤の毀損に繋がらないよう、全酪連は北福岡工場を中心に各乳製品工場や指定団体、乳業者と連携を図りながら対応しており、東北地区におけるその役割の再認識と現況確認を目的

に、このたび視察研修を行いました。

昨今の情勢による生乳需給バランスの大きな変化に対し、生乳は廃棄されることなく全量が販売されてきています。貯蔵性の高い「脱脂粉乳、バター」を加工製造することで、需給調整の一役を担っている当工場の役割を、参加者一同改めて強く確認ができた視察研修となりました。（N.J）



▲ 製造現場の視察



▲ 参加者集合写真



▲ 工場の概況説明

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

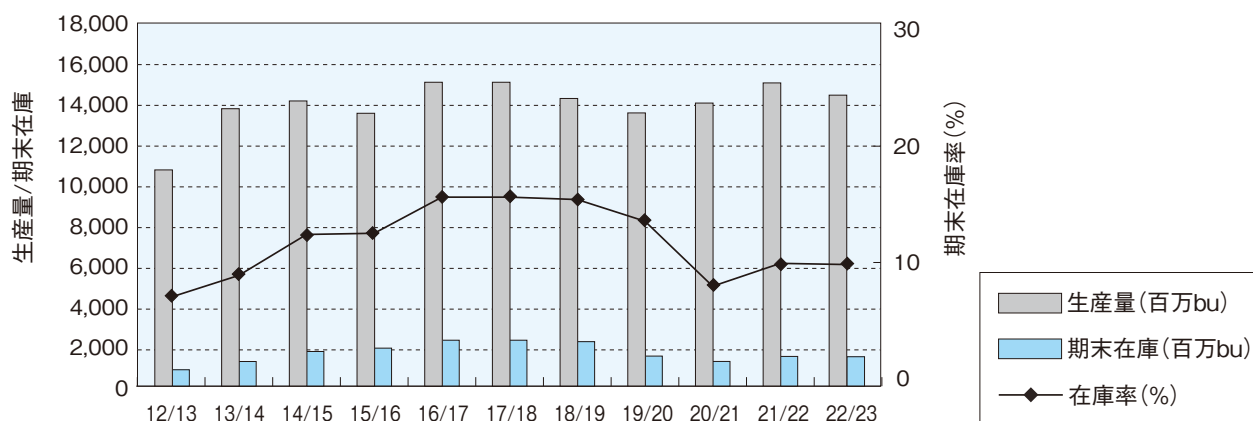
〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

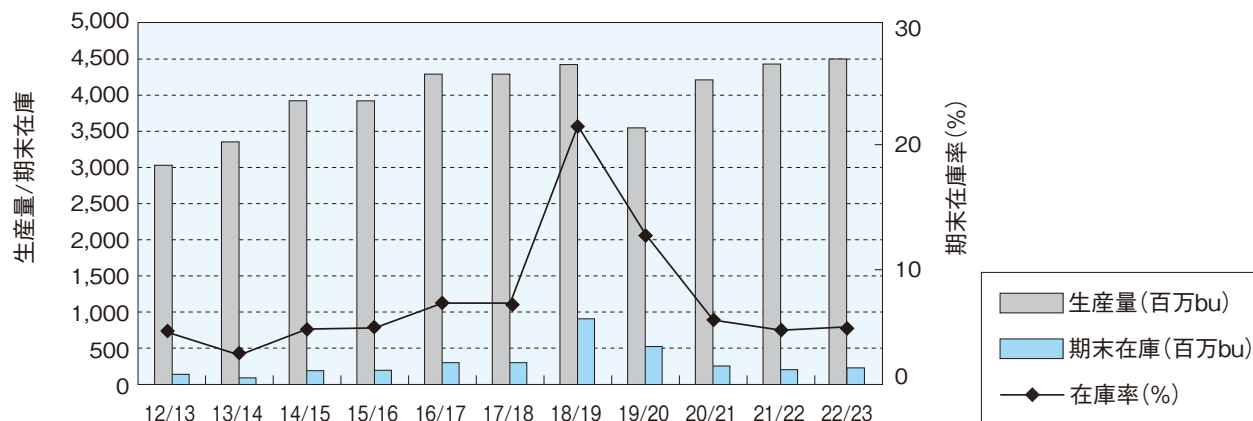


		21/22年産	22/23年産
7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	93.4	89.9
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.0	177.0
	生 産 量(ブッシェル)	151億1,500万	145億500万
	需 要 量(ブッシェル)	148億6,500万	145億7,000万
	期末在庫(ブッシェル)	15億1,000万	14億7,000万
	在 庫 率	10.16%	10.09%
トウモロコシ 相場動向	米国トウモロコシは生育期間に突入し、シカゴは天候相場となっている。米国中西部で高温乾燥予報が流れると生育の妨げになるためシカゴが高騰し、降雨予報になると大幅下落するなど乱高下の激しいシカゴ相場となっている。また中国によるブラジル産のトウモロコシ輸入が解禁されると需給が逼迫する可能性があるため注意したい。		
大豆粕相場動向	シカゴ大豆相場は米国景気後退懸念に伴う原油価格の下落につれ、植物油相場も弱含んでいることから下落傾向となっている。一方で輸入大豆価格は円安が進行していることから依然高値圏内となっている。国内搾油メーカーは菜種から大豆搾油へシフトしており、大豆粕相場は前期比やや値下げで推移している。反面、菜種粕の発生が大幅減少見込みのため非常に逼迫する見通しとなっている。		
槽糖類	【一般フスマ】 小麦粉の生産量は前年比若干の増加となっていることから、ふすまの発生量も若干の増加が見込まれ、ふすまの輸入量も増加していることから供給量はやや増加する見通しである。一方で、7-9月期は値上げの改定となったものの、他原料と比較して価格競争力のあることや、逼迫気味の他の槽糖類との兼ね合いから、配合使用割合が減少する見込みは無く、引続き供給制限がかかる見通しとなっている。		
	【グルテンフィード】 スターチメーカーは稼働期となり供給は緩和傾向にあるものの、中国産のロックダウン等の影響に伴う発生減少により輸入グルテンフィード価格が高騰していることから、相場は堅調に推移している。		
海上運賃	6月のフレート市況は、上値の重い展開となった。中国での経済活動再開の期待があったが、穀物の荷動きが予想より低調だったことが要因。また中国/インド向けの石炭の引き合いも一旦落ち着いた様子があり、これも相場を押し下げる要因となっている。8月以降、EUが正式にロシア石炭の輸入を止め、豪州産石炭にシフトすることから輸送距離が延びフレート市況を反発させる要因となってしまうため注意したい。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和4年7月

北米コンテナ船情勢	北米西岸港湾労組（ILWU）と使用者団体であるPMAとの労使交渉は、これまでの旧協約が失効する2022年7月1日までに新協約の合意に達しなかったと両者から発表がありました。加えて今後も新協約合意に向け継続協議を行う中で、合意に達するまで港湾の通常業務を続けていくという声明を発表しています。今後、秋口から米国では年末商戦に向けコンテナ貨物輸入のピークシーズンを迎えるため、早期の合意が望まれています。ロサンゼルス・ロングビーチ港では上海における長期化したロックダウンの影響や、例年ピークシーズンを終えた春先から初夏にかけて船腹が緩和することから、年末年始のピーク時には沖合で100隻以上滞船していましたが、この1カ月は25隻前後の滞船数を維持しています。これに伴い定期船のスケジュールも安定しており、日本への牧草の輸出货量も回復しています。一方で、現地コンテナターミナルでは輸出向けのコンテナ搬入許可期間の変更が頻繁に発生されるため、輸出業者では変更後のスケジュール対応に四苦八苦しており、引き続き不安定な出荷が続いています。
ビートパルプ	【米国産】 旧穀である20-21年産ビートは例年よりも生産量が多く、冬季の天候も手伝い保管状況がよかったことから、産地の工場によっては例年よりも2-3週間長い6月の第2週まで生産が続きました。21-22年産の作況は、春先以降、産地で良好な天候が続いたため順調な生育が続いています。一方で主産地の一部を除き例年より播種作業が遅延したため、単収の減少が懸念されています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは22年産1番刈の収穫が終了しています。22年産の1番刈は生育期である春先の寒冷な気温と、収穫直前となる5月上旬に強風を伴う断続的な降雨に直面したことから、収穫作業の開始は例年よりも3週間程度遅れて開始されました。加えて収穫期においても降雨が続いたため、雨当たり品が多く発生しています。また雨を避けられた圃場も適期を逃し刈遅れとなり、22年産の1番刈は下級品中心の発生となり上級品及び中級品の発生は限定的となっています。現在、コロンビアベースンでは南部で2番刈の収穫が開始されています。6月上旬から天候が回復しており、2番刈は上級品の発生が期待されています。一方で1番刈において適期を逃し、刈遅れとなった圃場の中には、固化的（リグニン化）した茎が刈り取りできず圃場に残されており、これらの茎は2番刈と同時に収穫されます。このため2番刈の圃場によっては刈り残された色目が悪く、茎質が固い茎の混入の可能性があります。22年産1番刈の収穫開始の遅れは、輸出向けアルファルファの生産量に影響を及ぼす可能性があります。産地では例年4番刈まで収穫されますが、22年産は1番刈の収穫が3週間程度遅れたことにより、生産スケジュールが大幅に遅れているため、多くの圃場で3番刈までしか収穫できないことが見込まれています。このため輸出向け主産地であるコロンビアベースン一帯の22年産アルファルファの生産量は例年より減少することが予想されています。産地相場は1番刈で下級品中心の発生にも関わらず、米国の酪農家、肥育農家といった内需からの旺盛な引き合いに下支えされ、他の地域同様、昨年同期比で大幅に上昇しています。背景には昨年来続く早魃により各生産者において粗飼料の在庫率が低いこと、直近の好調な米国乳価により購買力が高まっていることが挙げられ、産地では売り手市場が続いています。1番刈で上級品の発生が不足しており、22年産としての総生産量の減少も危惧されるなか、2番刈以降も上級品中心に堅調な相場になることが予想されています。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、現在4番刈が収穫されています。産地では夏季に入り連日40℃を超える日が続いており、成分値は下がり始め、茎は細く、過乾燥気味なサマーヘイが多く発生しています。例年サマーヘイは成分が低いいため、春先に発生した上級品に比べ相場は下がる傾向にありますが、22年産は引き続き内需を中心に旺盛な引き合いが続いており、産地相場は堅調を維持しています。 【ユタ州】 産地では他州同様、春先の冷涼な気候の影響で、例年より10日から14日程度遅い6月上旬から1番刈の収穫が開始されました。収穫期の天候に恵まれたことから、上級品が発生していますが、22年産は生育期の気候の影響から、生育が遅れ、単収は減少しており、生産者によっては、例年に比べ1番刈の生産量が40%-50%程度少なくなっています。6月中旬の気温も例年に比べ低く推移しているため、今後収穫される2番刈においても成分値の高い上級品の発生が期待されています。
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、6月中旬から1番刈の収穫が開始されており、最盛期を迎えています。コロンビアベースン南部では収穫期に降雨があったため、雨当たり品が一部発生しています。同地中部から北部では1番刈の収穫作業は終盤を迎えています。収穫期において好天が続いており、大半が雨当たりであったアルファルファと状況は異なり、多くの上級品の発生が期待されています。昨年早魃に見舞われたアイダホ州では、6月にあった降雨の影響で早魃状況は改善されており、冷涼な気候のなか順調な生育が続いています。同州では7月上旬から1番刈の収穫が開始される見込みです。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区と中部クレモナ地区では、早魃が懸念されていましたが、6月にまとまった降雨があったため、状況は改善傾向にあります。これまで冷涼な気温が続いたことから、例年より7日から10日程度生育は遅れており、レスブリッジ地区では7月上旬から、クレモナ地区では7月下旬から順次1番刈の収穫が開始されます。
インペリアル灌漑当局の取水制限について	米国西海岸の深刻な干ばつが継続する中、輸出向け牧草の主要産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、灌漑当局より22年に利用可能な水の供給を管理するため、飲料水、農業、工業、商業用水の各利用者に水資源を公平に配分する公平分配計画が6月20日に発表されています。この影響で7月1日から12月31日まで産地の各生産者は灌漑用水の使用量が制限されることになります。例年であれば、生産者は料金を払えば制限なく灌漑用水を使用できましたが、今後、7月以降の取水制限が設定されたことで、牧草より換金性に優れる野菜の生産が優先される可能性があります。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6月上旬より収穫が本格化しています。産地灌漑局から発表された、6月13日付時点の作付面積は46,011エーカー（前年同期39,909エーカー）と、前年同期比115%となっていますが、インペリアル灌漑局による取水制限の施策により、冬野菜の栽培に備え、水の使用を抑える必要があるため、1番刈の収穫を終えたスーダングラスの圃場の中には2番刈の栽培を行わず、野菜への収穫準備を進める動きも見られています。産地相場については、肥料価格や人件費、燃料費等の生産コストの上昇及び、22年産の生産量減少を危惧した輸出業者により旺盛な買付が行われており、他草種同様に大幅に上昇しています。
クレイグラス	クレイは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終了しています。肥料代や燃料代をはじめとする生産コストが上昇していることに加え、アルファルファ相場が高騰していることから、安価なタンパク源の代替としてカリフォルニア州を中心とする米国の酪農家からのクレイグラスの引き合いが増えており、産地相場は上昇を続けています。
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業を終えています。産地では米国内の馬糧向けの引き合いが強く、昨年比で産地相場は大きな上昇を続けています。輸出業者はバミューダの種子の収穫が終わり、バミューダヘイの収穫が本格化する8月頃には相場が落ち着くことを期待しています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、4月から5月にかけて適度に降雨があったため生育状況は良好です。ペレニアル種のライグラスストローは7月中旬から収穫が開始される見込みです。
オーツヘイ	【豪州産】 ウクライナ情勢の影響から小麦の価格が大きく高騰し、豪州産小麦が記録的な高値を推移しています。小麦はオーツヘイの競合作物となり、22年産は小麦の換金性が優れることが見込まれていることから、産地ではオーツヘイでなく、小麦の作付けを選択する生産者が多く、全豪的にオーツヘイの作付面積が減少しています。22年産の作況については、6月に生産地全域でまとまった降雨があり、土壌水分は回復しており、順調に生育が進んでいます。産地は現在、冬季に差し掛かっており、今冬は、全豪的に例年に比べ気温が高く、降雨量は西豪州で前年並み、南豪州、東豪州で例年より雨が多くなる予想で、今後も良好な生育が見込まれています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏 名
■令和4年8月1日付異動発令		
総務部 総務・広報課長代理	総務部 人事室 課長代理	松 本 千 穂
総務部 法務・コンプライアンス課長	総務部 総務・広報課長	中 村 宏 行
総務部 人事室 課長代理	北福岡工場 総務課長	牧之内 真智子
札幌支所 次長 兼 道北事務所長	購買生産指導部 畜産課 食肉リーダー	合 原 博 俊
札幌支所 釧路事務所長	札幌支所 道北事務所長	山 下 朋 哉
札幌支所 根室駐在員事務所長	札幌支所 購買推進課長代理	大 野 貴 弘
名古屋支所 指導組織課長	福岡支所 南九州事務所長	末 石 光 弘
北福岡工場 総務課長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料㈱鹿島工場 総務課長	朴 眩 鳳
購買生産指導部付外向 ㈱日本ミルククリブレイサー 製造課長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料㈱鹿島工場 製造課長	山 辺 大 剛
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料㈱鹿島工場 総務課長	総務部 法務・コンプライアンス課長	柳 舘 真 次 郎
■令和4年8月1日付兼務・兼務解除発令		
総務部長 兼 総務・広報課長	総務部長 兼 組織対策課長	工 藤 文 彦
札幌支所 購買推進課長	札幌支所 購買推進課長 兼 釧路事務所長	根 岸 知 紀
名古屋支所長 兼 酪農課長	名古屋支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	炬 口 浩 司
大阪支所長 兼 指導組織課長	大阪支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	津 田 知 亮
福岡支所 購買推進課長 兼 南九州事務所長	福岡支所 購買推進課長	前 田 遼 太
■令和4年8月1日付昇進発令		
総務部 組織対策課長	総務部 組織対策課長代理	板 倉 雅 治
大阪支所 酪農課長	大阪支所 酪農課長代理	鈴 木 悠 夏
大阪支所 指導組織課長代理	大阪支所 購買畜産課	大 竹 綾 子
購買生産指導部付外向 ㈱日本ミルククリブレイサー 管理課長	購買生産指導部付外向 ㈱日本ミルククリブレイサー 管理課長代理	秋 谷 崇 之

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	▼	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で102.0%、累計で102.5%、苫小牧管内月計で96.4%、累計で97.3%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬分挽腹~11月分挽腹が中心となります。秋分挽牛の市場への出品が始まってきておりますが道内需要、都府県需要ともに落ち着いているため、相場はやや弱含みに推移しております。庭先購買においても同様に、中クラス以上の初妊牛もやや弱含みに推移すると見込まれます。腹別では雌雄選別腹の出場頭数がF1腹と比較すると減少しております。管内、優良牛や高能力牛の多い地域でもあることから、上クラスの初妊牛を取りそろえることが可能ですので、優良血統や高能力牛をご希望の場合、相場が落ち着いている今、購買をお勧めいたします。
	初妊牛	45~55	▼	
	経産牛	22~32	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▼	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.2%、累計で100.2%、中標津管内月計で100.3%、累計で101.2%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬分挽腹~11月分挽腹が中心となります。都府県の導入について、例年通りであれば、お盆明けからの需要になると予測されますが、酪農資材高騰等の影響により、全体の動きは弱くなるものと思われます。価格につきましては、横這いの動きとなるものと見込まれます。近腹の9月分挽腹はすでに販売済みの牛が多く、資源は乏しいですが、10月中旬以降の腹は豊富に確保できるものと見込まれます。初妊牛の動きと同様に、育成牛、経産牛も引合いはやや弱くなっております。
	初妊牛	50~60	→	
	経産牛	28~35	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▼	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で101.3%、累計で102.4%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬分挽腹~11月分挽腹が中心となります。秋分挽の出品中心となることから、需要は回復傾向にあると思われますが、資源も豊富にありますので、庭先購買価格の相場は、横這いに推移するものと見込まれます。腹別では、雌雄選別腹、F1腹ともに、頭数は確保できる状況となっております。育成牛につきましては、スソ物・上物の価格差が大きく開いておりますが、並以上の10~12ヵ月齢の育成牛の需要は道内において特に高まってきている状況であり、相場はやや堅調に推移しております。
	初妊牛	50~60	→	
	経産牛	25~35	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.4%、累計で100.8%、北見管内月計で98.9%、累計で101.0%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬分挽腹~11月分挽腹となります。資源頭数は前年並み以上と予想されます。雌雄選別腹の引合いが若干強まっており、F1腹と価格差が縮まってきているため、庭先購買価格といたしましては横這いで推移すると予想されます。経産牛については、初妊牛と同様の動きになると見込まれます。育成牛に関しましては、来秋分挽候補牛となりますが資源頭数も前年並みに推移していることから横這い見込みとなります。導入希望がありましたらお早めにご連絡いただきますようお願いいたします。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	25~35	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	▼	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は100.1%、累計で101.3%の実績となっております。7月の道内は道東方面中心に天候不順で天気が続くことが無く、ロールの1番刈り取りが遅れている状況でした。8月の初妊牛動向といたしましては、10月下旬分挽腹以降の秋分挽中心に移行して来ますが、酪農情勢の影響を受け道内外の導入意欲は落ち着いており、相場については夏分挽相場とほぼ変わらず、やや弱含みから横這いを見込んでいます。資源については、腹別問わず全地域で豊富に揃っているため、十分頭数を確保できる状況にあります。例年よりは動きが鈍いとは予想されますが、盆明け以降、都府県の導入も活発になる季節となります。導入画がございましたら、弊会担当者へお早めのご注文をお待ちしております。
	初妊牛	47~57	→	
	経産牛	25~35	→	

お詫びと訂正

本紙7月号(No.682)13ページに掲載しました第48回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 寄居町立用上小学校4年(関甲信) 羽鳥隆成くん →

<正> 寄居町立土小学校4年(関甲信) 羽鳥隆成くん

今月の表紙

今月の表紙は「第12回 酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「おのこし調査隊」(広島県山尾稔之氏 撮影)です。



編集後記

- 紙面でも紹介いたしましたが、第50回全国酪農青年女性酪農発表大会が無事に閉会いたしました。参加者を募っての大会は3年ぶりとなり多くの皆様にご参加・ご協力いただいたこと、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。
- 8月に入り、一段と暑さが厳しくなってきました。コロナウイルス感染拡大も続いております。体調管理には十分に気を付け、この夏を乗り切りましょう。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和4年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.683

●編集・発行人 工藤文彦

●発行 全国酪農業協同組合連合会

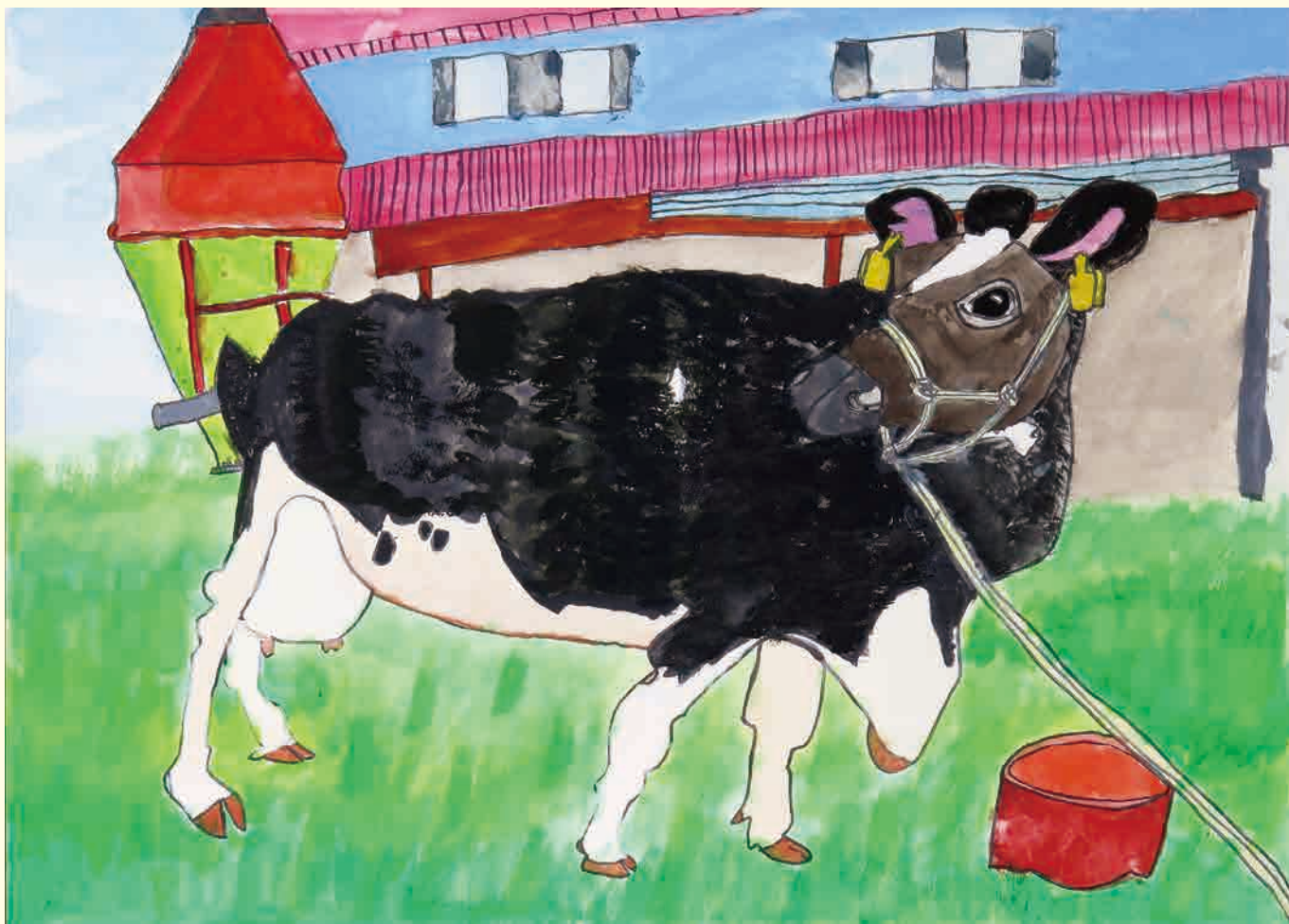
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



牛がうしろをみているよ。

寄居町立折原小学校 3年(関甲信) 大塚 虹七

今月の入賞作品は…

寄居町立折原小学校 3年(関甲信)の大塚虹七さんの作品です。

牛舎の前で、頭絡を強く引っ張りながら後を振り向く牛さんの姿が描かれた作品です。この体勢で描かれた牛さんの絵はめずらしいです。とても斬新に感じました。牛さんの毛並みは絵の具の濃淡や筆の走らせ方に工夫がみられ、動物の肌触りが伝わってきます。画面全体はカラフルで躍動感のある作品に仕上がってます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議